

みなさん、おはようございます。話を聞く準備はできていますか？今、あなたの耳には何が聞こえていますか？……。蝉の声、聞こえる？ さて、今回も集中するのは「耳」。聴く力です。今日はその聴く力と、「想像する力」を最大限に使ってください。はい、姿勢を正して。いいですか。始めます。

今日から2学期が始まりました。1学期の終業式では「想像終業式」として、みなさんには想像の中で全員体育館に集まってもらいました。覚えてる？ さて、そのときに言ったことですが、「自分らしさに打ち込む」夏休みを過ごすことはできたかな？より自分らしくなる時間をたくさんとれた人は、今年の夏休みは 花マルです。そうでなかった人、自分らしくなる時間をあまりとれなかった人も、運良く新型コロナウイルスに感染しなかったわけですから、これも 花マルものです。ですから、今、この放送を聴いているみなさんは、とてもラッキーな、運のいい人たちだということです。だって、いつ、誰が罹ってもおかしくないのが新型コロナですからね。この2学期も感染予防の3つの基本、人との距離をとる、マスクをつける、石けんで手洗いをするの3つを、実行しましょう。なお、熱中症予防のための3つの「とる」も意識してくださいね。つまり、人との距離をとったらマスクをとる、水分をとる、休憩をとるの3つです。やるべきことはきちんとやりながら、自分らしさをより深められるよう、あきらめずに挑戦する2学期にしてほしいと思います。

さて、実は今日、〇〇さんというラジオの仕事をしている私の知り合いが来てくれました。小学生に向けてしゃべるのは初めてなので緊張して ます...ね。はい、はい。では、さっそく〇〇さんのお話を伺いましょう。どうぞ！（パチパチパチ・・・拍手）

（えっ？ 何で。・・・オープニングの曲？ ほんまにかけんの？ ...わ、わかった。）

え～、みなさん、すみません。〇〇さんは仕事から、ラジオ番組のオープニングの曲がかからないと、どうも話ができないようです。では、あらためまして、〇〇さんです。

（オープニング曲）

みなさん、はじめまして。〇〇です。え～、加藤先生とは20年ほど前のラジオ番組の中で知り合いました。新型コロナのたいへんな中で、小学生の子どもたちがどんなことを考え、頑張っているのかを知りたくて、先生にお願いして、藤城小学校に来させてもらいました。聞いてはいたけど、自然豊かな、いい環境にある学校だね。うらやましい。

さて、今日、僕がみなさんに話したいのは、つい2週間ほど前に僕が住んでいる街で起きたこと。

僕が住んでいる町では、なぜかはわからないんだけど、新型コロナウイルスの感染者がずっとゼロだったんだ。地球上にコロナウイルスが蔓延している今、幸運なことに、ずっとゼロが続いていた。これはまさに、ラッキーだったとしか言いようがない。でもね、ず

っとゼロが続くと、街の人たちの顔つきは、次第に陰しくなっていたんだ。僕たちは感染することへの恐れよりも、この町で、ずっとゼロが続いているこの街で、最初の感染者にだけはなりたくない、そんな気持ちばかりが大きくなっていった。そう、もし感染してしまったら周りの人たちに何を言われるだろうと、そんなことばかりを恐れるようになってしまったんだ。

そして、運命の2週間前。近所のスーパーマーケットの従業員さんにPCR検査で陽性が出た。我が街、最初の感染者だ。正直、「あ～、とうとう出ちゃったか。せっかくみんな頑張っていたのに。」という残念な気持ちと、「僕が1番目でなくてほんとうによかった」と、ほっとする身勝手な気持ちも感じてたよ。うん。情けないことだけど。

でもね、このあと、僕は忘れられない光景を目にすることになるんだ。臨時休業となったスーパーの前で、このお店の社長さんが近所の人に頭を下げていた。「この度はほんとうに申し訳ありませんでした。この店からこの街最初の感染者を出してしまい、皆さまにはたいへんご迷惑をおかけしました。」と、何度も何度も、深々と頭を下げているんだ。

んっ？と思った。コロナウイルスに感染することは、こんなにも謝らなければならないことなんだろうか？ 誰一人として感染したい人なんていない。だが、あなたも僕も、みんなに等しく感染の可能性はある。それなのに、感染したら、ごめんなさい、なのか？感染予防のために、他のお店以上に対策をとっていたこのスーパー。やれるだけのことをやっていたのに、ひたすらごめんなさい、なのか？ いや、ちょっと待てよ！

僕たちが恐れなければならないもの、気をつけなければならないものはウイルスのはずだった。それが、いつのまにかウイルスから「人」にすり替わっているのではないか。ウイルスを恐れるのではなく、人を人の目を恐れる社会になっているんじゃないかと。

今日は、この、僕の街で起きたことを小学生の皆さんに聴いてもらおうと来させてもらいました。夏休み明けの貴重な時間をありがとうございます。僕はすぐに帰るので、あとのお願いは加藤先生に伝えてあります。もし、どこかで僕の声がラジオから流れてきたら、ぜひ、耳を傾けてくださいね。それでは、さよなら。ありがとうございます。

ということで、〇〇さんのお話でした。ありがとうございます。ラジオ番組の収録のために、このあとすぐにお帰りになります。あっ、お見送りはいいですよ。

〇〇さんは、スーパーの社長さんに声を掛けられなかったことをずっと今も後悔しているんです。何も言えなかったって…。そこで、皆さんなら、「ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした」とひたすら頭を下げ続ける社長さんに、どんな声を掛けますか？この放送が終わったら、担任の先生から配っていただく小さな紙に、僕なら、私なら、こう声を掛けたいということを書いてください。後日、〇〇さんに届けますので。

これで2学期の始業式とします。姿勢を正して。頭の中で、「礼」。
それでは〇〇さんからのお願い、担任の先生、よろしくお願いします。